

取組の概要

対象畜種

採卵鶏

協議会構成員

セントラルライス中通、ITSファーム、伊藤忠飼料（株）
松島町産業観光課、JA仙台東部営農センター

飼料用米生産面積

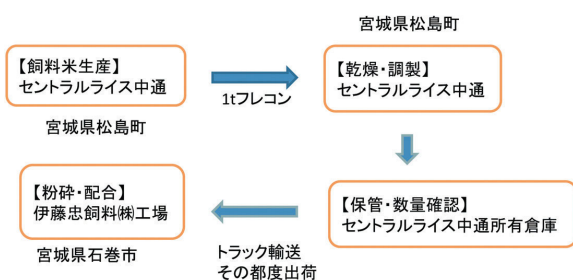
1.2ha

供試品種

ふくひびき 1.2ha

取組内容

① 飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



◆生産集団による飼料用米の多収生産と収穫後、自己所有するライスセンターによる乾燥調製作業及び流通方法の検討並びに提携飼料メーカーとの耕種、畜産連携を図る。

② 飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査
(畜産物の成分分析を含む)

試験設計：採卵鶏において、配合飼料に10%配合。

調査項目：産卵率、卵重、卵黄色

調査結果：産卵、卵重については変化なし

卵黄色はカラーファンNO.で0.4~0.5ポイント低下した

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 多収品種の玄米収量は一部に倒伏が見られたが品質、収量とも満足できる結果であった。
- 水田から収穫後、自己所有するライスセンターに運搬し、清掃済みの乾燥機を使用し乾燥させ、粉摺りをした。
- 一年を通じ、栽培期間、収穫、乾燥、調製、保管、運搬に至る経過についてはほぼ計画的に実施できた。
- 保管から給与までの期間が長くなり課題として残った。

2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 採卵鶏における影響として産卵、卵重に関しては、ほぼ変化がなかった。
- 卵黄色に関しては、やや薄色化してきているようであるが、給与期間や給与量との関係もあり、引き続き調査が必要と考えている。

3. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 栽培面積としては、引き続き生産量を維持したいと計画している。
- 家畜への給与についても昨年度と同様に計画している。
- 耕種農家にとっては、年内の流通、利用、支払いまでを完了して欲しいと感じている。(飼料用米の保管場所確保の関係)
- 取組を継続する上で、実需者等への支援も重要と考えられる。

JA仙台 東部営農センター 阿部